

# 第1章

## 第62回

### 日米学生会議概要

第62回日米学生会議概要……………	8
参加者名簿 日本側……………	10
アメリカ側……………	11
メディアへの掲載……………	12

## 第62回日米学生会議概要

「世界の問題を、私達の課題へ ～異なる個の生む衝突と共鳴から～」

– To Understand, To Unite, To Act

: Continuous Evolution through Integrated Perspectives –

日米学生会議、それは異なる個が集まり、様々な体験をもとに「共に考え抜き」、そして「衝突と共鳴」を繰り返す場である。第62回日米学生会議は、この二つを重要なコアとして1ヵ月間の活動に取り組む。

2009年、オバマ大統領は就任演説で「新たな責任の時代」というメッセージを世界に発信した。そのメッセージの中で彼は、我々に全世界の一人一人の個人が社会に対して確かな責任を負う時代の到来を説いていた。それでは今、学生である私達の責任とは一体何なのであろうか？それは未来の担い手として、今ある複雑な世界の問題を「自ら解くべき課題」として捉え直し、真摯な姿勢で「共に考え抜き」ことだ。学生である今だからこそあらゆる縛りを超え、異なる背景と考えを持つ個人が自由に意見を表明できる。そして誰にも縛られない本音の対立から逃げないことで、未来を作る「絆」が生まれる。これが「衝突と共鳴」である。

第62回日米学生会議はまず、なぜ今「日米」なのかという問題を共に考え抜く。日米関係の基軸となってきた日米安全保障条約改定50周年を迎える2010年。その目前に、日米両国では歴史的意義のある政権交代が起きた。同時に世界レベルでは、金融危機、東アジア安全保障等、様々な問題の中心に両国はいる。日米を取り巻く状況が大きく変わりだした今、いかに両国は未来を志向して行くのか？それは直接、これからの「日米」学生会議自身の意義という参加者が真摯に考えるべき課題ともなるだろう。

アメリカ開催の第62回日米学生会議では、リッチモンド、ワシントンD.C.、ニューオーリンズ、サンフランシスコの4都市におけるフィールドトリップや、ホームステイなど様々な経験を通して、

新たな問題意識が両国学生に生まれる。あらゆる問題を考え抜く1ヵ月間、全ての参加者の人生へのインパクトとなることを期待している。異なる個が「新たな個」となる最初の一步として、互いに考え抜き高めあう“Life Changing”な1ヵ月を、第62回日米学生会議は全員では創り上げていく。

### 【主催】

財団法人国際教育振興会

### 【企画・運営】

第62回日米学生会議実行委員会

### 【会議開催期間】

2010年7月26日～2010年8月21日

### 【事業開催期間】

2010年4月1日～2011年3月31日

### 【開催地】

各開催地での滞在期間は約1週間となり、それぞれがサイトテーマの下で運営される。サイトテーマとは、開催地ごとに実行委員の準備するプログラムに共通する「問題意識」を明文化したものである。これにより、初めてとなる多くの体験の中で混乱しがちな参加者達に、持つべき問題意識の指針を示すと共に、より「学び」の姿勢を取りやすくすることを目的としている。第62回日米学生会議では以下の4都市を巡る。

第1開催地 < Richmond, Indiana >

第2開催地 < Washington, D.C. >

第3開催地 < New Orleans >

第4開催地 < San Francisco >

## 【本会議におけるプログラム】

### 【分科会 (Round Table)】

本会議においての活動の中心となる分科会は7つ設けられており、日米双方5名ずつの学生が、本会議期間中を通じて議論を重ねる。事前活動に加え、本会議中もフィールドトリップで関連機関や専門家を訪問するなど、議論の質向上を目指す努力が続けられる。なお、第62回会議における分科会は以下の通りである。

#### (1) 学生の社会参画

: Empowering Today's Youth: Overcoming Challenges in Society

#### (2) 21世紀における日米の教育

: Revitalizing Education

#### (3) 安全保障と日米

: Security, Military and Peace: The United States and Japan

#### (4) 社会起業家

: Social Entrepreneurship: The Power to Transform

#### (5) 新興国と地球環境問題

: Spreading Environmental Awareness in Industrial Developing Nations

#### (6) 地域再生 一都市、農村が生き残るために

: Sustainable Regionalism: How Can Urban Cities and Local Communities Coexist?

#### (7) 国際社会とナショナルアイデンティティ：対立から共存へ

: The Role of National Identity in the Globalizing Society

### 【Field Trip】

分科会の議題や各開催地に対する理解を深めることを目的に、政府機関、国際機関、企業、大学、NGO、NPO及び研究所などへの訪問研修を実施する。事前活動におけるものと同様に、社会と直接関わることのできる貴重な機会であり、議論をより現実的視点から行うための礎とする。

### 【Special Topics】

限定された議題を扱う分科会とは異なり、参加者が個々の関心に沿った議題を自由に設定し、異なる視点から議論を行うことを目的としている。また参加者の主体的、自発的な参加により、問題発見及び議題設定能力を養うと同時に、より広い参加者同士の交流を促し、新たな視点や発想を得ることで、会議をより充実させることも求められる。

### 【Conference Wide Reflection】

参加者が一同に集い、会議中に感じた悩み、不安、感動、喜びなど様々なことを自由に話し合う。自分の思いを全体に伝え、また他者と思いを共有することで、自己を振り返り、他の参加者との相互理解を促進することを目的とする。

### 【Forum / Final Forum】

各開催地のテーマに沿って随時行われる。第一線で活躍する専門家や有識者の講演、または学生を交えたパネルディスカッションなどを通して学生のみでのディスカッションとは異なる視点から知識を得る。また、ファイナルフォーラムでは分科会の成果の発表を行い、現代社会が抱える問題とそれに対する学生なりの視点を来場者と共有することによって、第62回日米学生会議の成果を社会に発信することも目的としている。

## 第62回日米学生会議日本側参加者

## 日本側実行委員

日本側実行委員	大学	学部・専攻	学年	RT
安川 皓一郎*	早稲田大学	法学部	4年	—
加藤 梓	慶應義塾大学	総合政策学部	3年	EDU
大宮 透	東京大学	工学部都市工学科	4年	SR
坂田 奈津希	東京大学	法学部	3年	YOUTH
杉本 友里	京都大学	総合人間学部	4年	NID
高田 修太	東京大学	工学部社会基盤学科	3年	SE
高橋 央樹	一橋大学	商学部	3年	ENV
中村 真理	東京外国語大学	外国語学部スペイン語専攻	3年	SEC

\*日本側実行委員長

## 日本側参加者

日本側参加者	大学	学部・専攻	学年	RT
新井 良子	昭和大学	医学部医学科	3年	SR
有川 慧	国際基督教大学	一般教養学部アーツ・サイエンス学科	2年	ENV
飯倉 江里衣	東京外国語大学	大学院総合国際学研究科博士前期課程	M1年	NID
井上 聡美	筑波大学	社会国際学群社会学類	2年	YOUTH
大井 芳季	東京大学	経済学部経済学科	4年	ENV
奥谷 聡子	慶應義塾大学	法学部政治学科	2年	YOUTH
尾崎 裕哉	慶應義塾大学	環境情報学部	2年	SE
郭 ヒギョン	立命館大学	国際関係学部国際関係学科	3年	SE
片山 直毅	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年	EDU
木本 篤茂	東京大学	法学部	4年	SE
栗原 隆太郎	慶應義塾大学	法学部法律学科	2年	SEC
斉田 英恵	群馬大学	医学部医学科	2年	ENV
齋藤 友理絵	防衛大学校	公共政策学科	4年	SEC
柴田 真也子	一橋大学	法学部	2年	SEC
高橋 亜矢	青山学院大学	国際政治経済学部国際政治学科	2年	SE
竹内 智洋	慶應義塾大学	法学部法律学科	2年	NID
中澤 耕己	東京工業大学	生命理工学部生命工学科	3年	EDU
生板 純一	慶應義塾大学	経済学部	3年	ENV
庭野 啓太	一橋大学	商学部商学科	3年	NID
橋本 遥	京都大学	農学部応用生命科学科	3年	YOUTH
細井 駿	東海大学	教養学部国際学科	4年	SR
松下 マエス	埼玉大学	経済学部経営学科	4年	NID
丸山 綾子	京都大学	総合人間学部	4年	SR
森田 真弓	東京大学	教養学部文科Ⅱ類	2年	EDU
山口 寛明	青山学院大学	国際政治経済学部国際政治学科	4年	SEC
山下 真貴子	宮崎大学	医学部医学科	3年	EDU
山田 晃永	東京大学	文学部言語文化学科	3年	SR
米本 大河	立命館大学	国際関係学部国際関係学科	2年	YOUTH

分科会の略称 YOUTH: 学生の社会参画, EDU: 21世紀における日米の教育, SEC: 安全保障と日米, SE: 社会起業家,

ENV: 新興国と地球環境問題, SR: 地域再生—都市、農村が生き残るために—, NID: 国際社会とナショナルアイデンティティ: 対立から共存へ

## 第62回日米学生会議アメリカ側参加者

### American Executive Committee

<u>Name</u>	<u>University</u>	<u>Major</u>	<u>Year</u>	<u>RT</u>
Naoki John Yoshida *	Cornell University	Engineering Physics and Economics	2	—
Yudai Chiba	Princeton University	East Asian Studies	4	SEC
Leah Flake	Smith College	Engineering	3	ENV
Mariama Holman	Wake Forest University	Business, Art, and Sociology	2	SE
Diane Lee	Smith College	English, Government	3	EDU
David Myers	SUNY Geneseo	Political Science	2	YOUTH
Ikuno Naka	Wellesley College	History	2	NID
Marie Watanabe	Wellesley College	International Relations	2	SR

\* American Executive Committee Chairperson

### American Delegates

<u>Name</u>	<u>University</u>	<u>Major</u>	<u>Year</u>	<u>RT</u>
Michael Berlet	Wake Forest University	Liberal Arts	2	SEC
Cameron Bradley	Eckerd College	International Business	2	ENV
Bryan Burns	University of Akron	Mass Media Communications	3	SE
Benjamin Colon	Amherst College	Liberal Arts	2	SR
William Coremin	University of Hawaii, Manoa	Business, Japan-focus	MBA	YOUTH
Ian Cross	Earlham College	History	4	NID
Deidra Denson	College of William and Mary	English and Hispanic Studies	2	NID
Lisa Du	Duke University	History	3	EDU
Ashley Hill	Colgate University	International Relations, Japanese	3	SEC
Yuri Hongo	Bryn Mawr College	Psychology	2	SE
Paul Horak	Duke University	Liberal Arts	1	SR
Sho Igawa	Tufts University	International Relations, Chinese	2	SEC
Daniel Jodarski	University of Wisconsin, La Crosse	Economics, International Studies	3	EDU
Nicole Johnson	Earlham College	English Literature, Japanese	3	EDU
Ryosuke Kobayashi	Harvard University	Government	1	EDU
Carly Lauffer	University of Idaho	International Studies	1	YOUTH
Taylor Luczak	Mississippi State University	Political Science, Asian Studies	3	NID
Henry Luu	Harvard University	Neurobiology	3	SR
Patrick McCurdy	Three Rivers Community College	Liberal Arts	2	SE
Justin Perkins	Carleton College	Liberal Arts	3	SR
Christina Ryu	Smith College	East Asian Studies, Government	3	NID
Kunihiro Shimoji	Saint John's University	Political Science, Economics	1	SE
Dillon Svec	University of Nebraska	International Studies	1	SEC
Weiyang Tang	Depauw University	Economics, Piano Performance	1	YOUTH
Kseniya Vaynshtok	University of Wisconsin, Madison	Political Science	3	ENV
Alex Yu	Cornell University	Applied and Engineering Physics	1	ENV

分科会の略称 YOUTH: 学生の社会参画, EDU: 21世紀における日米の教育, SEC: 安全保障と日米, SE: 社会起業家,

ENV: 新興国と地球環境問題, SR: 地域再生一都市、農村が生き残るために一, NID: 国際社会とナショナルアイデンティティ: 対立から共存へ

## メディアへの掲載

### ■テレビ

2010年6月28日(月) NHK 沖縄 NHK 沖縄ニュース

### ■新聞

2010年7月11日(日) 琉球新報 「学生会議が意見交換」

### ■HP

れすぱす 東京都の国際交流・国際協力ニュースレター 2010年3月号  
在シカゴ日本国総領事館 久枝総領事の主な活動(2010年5月～8月)

### ■学内雑誌等

2010年1月8日(金) 塾生新聞(慶應義塾大学) 「三田で日米学生会議報告会」

2010年9月7日(火) 防大かわら版 「日米学生会議に参加した齋藤学生から」

2010年9月14日(火) 東京大学新聞 「世界の学生と議論」

2010年10月28日(木) Waseda Weekly (早稲田大学)

「未来の日米の架け橋を目指して～第62回日米学生会議～」

2010年11月26日(金) 東京大学新聞 キャンパスガイ

↓ 2010年1月8日(金) 塾生新聞(慶應義塾大学)



↓ 2010年7月11日(日) 琉球新報

